

1. 主題構成表

主題名 生命を大切に

資料名 うみがめのおかちゃん 出典:(文溪堂)

<p>内容項目D - (17) 生命の尊さ (低) 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。 (中) 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。</p>	<p>内容項目から見た児童の実態(意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命は大切にしなければいけないことは、当然頭ではわかっているのに、虫を捕まえても逃がしてやることができる。 ・自分の植えた花や野菜の成長を見るのが楽しみで水やり等の世話をすることができている。 ・興味が薄れると、水やりや草抜きが人任せになってしまうたり、声を掛けてもらわないと進んでできなくなってしまうことがある。 <p>要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での生き物の世話は植物に偏りがちで、世話をしても動物のように反応がすぐ返って来ない。また、成長がゆっくりで大きな変化があまり見られないため、興味が持続しづらい。そのため、生命が大切であることが分かっているにもかかわらず、大切な生命を預かっているという意識をもち続けることが難しい。 	<p>資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本資料は、2時間もかけて、母がめが必死に卵を産むシーンから始まる。産み終わると、後ろ足で丁寧に砂をかけ、海に帰っていく。大切な生命が親から子へ渡されていく感動的な場面である。児童は、自分もふくめ、全ての生き物が親から大切な生命を受け継いでいることに気付くことができる。 ・2か月がたち、ようやく卵がかえった。ウミガメの赤ちゃんは、誰にも教えてもらわないのに、海を目指して懸命に進む。砂の窪みや波が赤ちゃんがめの進路を邪魔する。それでも負けずに、必死に進む赤ちゃんがめの気持ちを考えることで、与えられた命を精一杯生きようとする思いに共感することができる。 ・海に出た赤ちゃんがめ達は、離れ離れになりながら、新しい生活を始めていく。海に生きて辿り着いてくれて良かったという気持ちに共感し、これからも、大切な命を守り、精一杯生きてほしいという思いを強く抱くのである。
<p>価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生命を大切に」するということは、人間も含め、生命ある全ての生き物の生命を大切にすることである。 ・児童は、生命が大切であるということを知覚的に理解している。低学年の場合、自分の誕生を心待ちにし、今まで育ててくれた家族の思いを知り、自分の生命そのものがかけがえのないものであることを実感させたい。中学年では、祖先から受け継がれてきた生命だからこそ、大切に守り、与えられた生命を一生懸命に生きるすばらしさについて考えていけるようにすることが重要である。 ・特別支援学級の児童は、興味がなくなると途端に、大切にしてきた花や野菜でも世話をしなくなってしまうがちである。生きることのすばらしさに気付き、生命あるもの全てを大切にしようとする心情を育てたい。 		

ねらい
 困難なことを乗り越え、必死に生きることのすばらしさに気付き、生命を大切にしようとする心情を育てる。

他の教育活動との関連

<p>事前 生活・理科 種まき・苗植え 花や野菜の種や苗を植えて、水やり等の世話をしている。しかし、休み時間、自分のしたいことを優先してしまい、大切な水やりを忘れてしまうこともある。</p>	<p>本時 「うみがめのおかちゃん」</p>	<p>事後 生活・理科 収穫 花や野菜は世話をすれば、きれいな花を咲かせたり、たくさんの野菜を実らせたり、種を残す力があることを実感する。</p>
--	---	--

「私たちの道徳」の活用(授業前・授業中・授業後・活用しない)
 (活用の仕方) 1年: p90「いのちをたいせつに」 2年: p94おはかまいり 3年: p100「たった一つの命」の話を、教師の説話で紹介する。

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>自分の飼っている生き物や、育てている植物を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀やモモンガ ・めだか ・枝豆 ・ミニトマト <p>動物も植物もみんな同じ生き物。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、児童が育てている生き物に対して思っていることや、どんな世話を続けているのかを会話の中から把握しておく。 ・児童が生き物の命を大切にしていることに触れ、価値への方向付けをする。
展開前段	<p>話を聞き、うみがめのお母さんや子どもの気持ちや行動について話し合う。</p> <p>感想を発表しましょう。(かめのすごいと思うところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うみがめのお母さんは、2時間もかけて、たった1匹で120個も卵を産んだことがすごい。 ・うみがめの赤ちゃんは、誰にも教えてもらわないのに、1人で海に向かって歩いていったところがすごい。 <p>うみがめのお母さんは、卵を産んでいるとき、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員、元気で生まれてきてね。 ・海で待っているからね。 ・側にいてあげられないけど、頑張るんだよ。 <p>ようやく海に出ることができたうみがめの赤ちゃんに、どんな声をかけてあげたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかったね。 ・やっと海に着いたね。 ・よく頑張ったね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>深めの発問</p> <p>何匹海に帰ってくると思う？ どうしてそう思った？ (120個の卵のうち、無事海に辿り着くのがたった1個、産卵のために浜に戻ってくるのが5000個に1個だという話をし、再び同じ発問をする。)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これから海でも頑張ってね。 ・危険もいっぱいあるから気を付けてね。 ・みんな、元気に大きく育ってね。 ・大人になって、またここへ帰ってきてね。 ・卵を産みに帰って来るんだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい写真の資料を用いて話をする。 ・場面の様子をとらえやすいように、児童の感想を導き出した言葉を掲示する。 <p>うみがめの出産の様子が分かる視覚資料を提示し、必死に卵を産むお母さんの気持ちに気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童がうみがめの赤ちゃん、教師が襲いかかる鳥や波の役になり、役割演技をする中で、必死に生きようと頑張る赤ちゃんがめ応援する気持ちを引き出すようにする。 ・布製の甲羅を準備し、役柄になり切るようにする。 ・深めの発問をすることにより、海にたどり着くことがゴールではなく、成長していくための生活がここから始まることに気付き、生命を大切にしようとする気持ちを高めることができる。 <p>懸命に生きる赤ちゃんがめを大切に思う気持ちから、全ての生命を大切にしようとする心情を高めることができる。 (自己啓発力)</p>
展開後段	<p>自分の生活を振り返る。</p> <p>今、野菜や花を育てていますが、水をやらなかったらどうなりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枯れてしまうので、毎日水をやりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りやすいように、場面を限定する。
終末	<p>教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わずかな土に根を生やしていたクリサンセマムが、花を咲かせていたことに気付き、すごいと感じたR児の観察ノートを紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの道徳を紹介する。 1年：p90「いのちをたいせつに」 2年：p94 おはかまいり 3年：p100「たった一つの命」 	<ul style="list-style-type: none"> ・必死に生きている花に気付いたR児のよさを話す。 ・懸命に生きる様々な生き物の写真を提示し、生きることのすばらしさを感じることができるようにする。 ・私たちの道徳を紹介する。